

医療安全トピックス TOPICS

Vol.109

井上 純子

日本医療機能評価機構医療事故防止事業部医療安全課 課長

医療安全情報 No.152、153 「手術時のガーゼの残存」について

公益財団法人日本医療機能評価機構では医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、過去に取り上げた共有すべき事例や分析テーマの中から、特に周知すべき情報について、医療事故の発生予防・再発防止を促進することを目的に、医療安全情報として提供しています。医療安全情報はホームページに公表するとともに、全国の約6000医療機関にFAX配信を行っています。

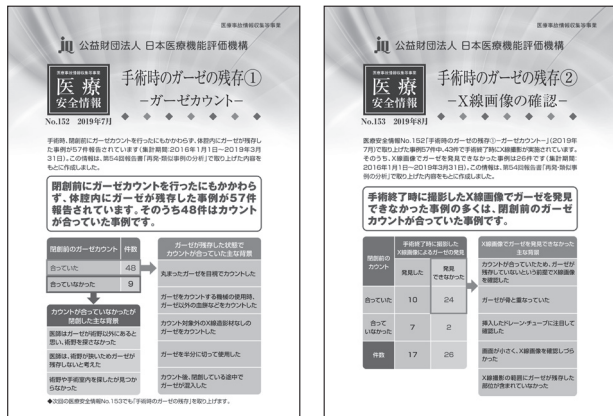
本稿では、2019年7月に提供した医療安全情報 No.152「手術時のガーゼの残存①－ガーゼカウント－」と、2019年8月の医療安全情報 No.153「手術時のガーゼの残存②－X線画像の確認－」について紹介させていただきます（図表1）。

●体内へのガーゼの残存について

本事業では2005年に公表した第1回報告書において「手術等における異物残存」を取り上げました。2004年10月の事業開始から15年が経過しても体内への異物残存は永遠のテーマです。特にガーゼの残存については、報告書の「再発・類似事例の分析」で繰り返し情報提供を行っていますが、毎年多くの事例報告があります（図表2）。

今回は、医療安全情報の提供開始後、初めて2部構成としました。7月に提供したNo.152①ガーゼカウントでは、閉創前にガーゼカウントを行ったにも

【図表1】医療安全情報 No.152、153



【図表2】体内にガーゼが残存した事例の報告数

報告年	件数	報告年	件数
2005	9	2012	32
2006	26	2013	23
2007	15	2014	28
2008	22	2015	25
2009	38	2016	22
2010	30	2017	26
2011	19	2018	32

かかわらず、体腔内にガーゼが残存した事例を取り上げ、閉創前のガーゼカウントの状況とその背景を示しました。また、8月に提供したNo.153②X線画像の確認では、①で取り上げた事例のうち、手術終了時にX線撮影が実施された事例を取り上げ、手